

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170103986		
法人名	有限会社 アルファメディカル		
事業所名	ハートヴィレッジ老松		
所在地	岐阜県岐阜市老松町10		
自己評価作成日	令和 4年 7月20日	評価結果市町村受理日	令和 4年 11月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

看取りの希望が多く、最期までの支援を多く行い、ご家族も交えての医療との連携を密に行っています。また、本部が医療法人である為、医療との連携が早いです。コロナ禍でも、家族との時間を大切にできる様、リモート面会や窓と駐車場での面会、ターミナル期の方は、感染対策を十分に行い、直接ご本人と面会できる様にしています。また、自立支援を念頭においたケアを実施しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JkyvosvcCd=2170103986-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和 4年 8月23日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

系列法人は病院や施設等の複合的な事業展開を行っており、密な医療連携が可能である強みがホームの運営に活かされている。例えば、利用者の状態に合わせて法人全体で、安心して最期までトータルに支援できる体制となっており、本人や家族の意向を踏まえて、医療職やリハビリ職等と連携しつつ、質の高い看取りケアを実践している。また、ホームは地域の介護の拠点施設として、住民と顔の見える関係を築く等、地域に密着した地域支援を行っている。現在もコロナ禍の只中にあり、以前に比べ、地域との関わりや外出が制限された状況にあるが、おやつ作りや祭り等ホーム内で行事を行う等して、生活の中で楽しんだり、生き活きと暮らしていただけるように努めている。理念にある「利用者第一主義」、「心のあるケア」をキーワードの下に、利用者・家族の意向に向き合い、コロナ禍の状況を勘案しながら、窓越しでの面会を取り入れ、利用者と家族の関係が途切れないよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に添った実践に努め、共有していますが、コロナ感染があり、地域との連携ができていない	理念は各フロアに掲示して、職員全体で共有するとともに、意識化を図っている。「利用者様第一主義」の理念に基づき、感染状況を見ながらも、利用者・家族の意向に沿って家族との面会や行事等を実施する等、利用者を第一に考えた支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	長い時間の交流は現在できていませんが、近所の方との挨拶やお日待ちの参加は実施している	今年度も引き続き、コロナ禍の状況にあり、以前に比べて交流の頻度は少ないが、駐車場で日向ぼっこや周辺散策等で、近隣の方々とお会いし、挨拶を交わしている。また、機会を捉えて事業所情報の発信に努め、地域との関係継続に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流が限られているため、地域の人々に向けての大きな支援活動ができていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染対策の為、会議の開催が出来ず、書面にての郵送の為、なかなか意見交換ができていない	コロナ感染対策で、対面での会議が行われていない状況にあるが、資料作成時に参加者である自治会長や社協担当者、地域包括支援センター職員、家族に電話をしたり、会った際に意見を聞く等して、ホーム運営に反映できるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告は書面にて行い、後はメール連絡等で連絡をもらっています	市担当者とは顔の見える関係ができています。必要に応じ、電話等で相談している。コロナ感染症対策や入居、研修等についても、メールや電話等で情報交換する等、協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会で研修を年2回、委員会を年4回実施しており、目標を掲げ、ケアに取り組んでいる。又、毎月、ミーティングで身体拘束をしないケアの実践に向けて振り返り、話し合いを行っている。玄関の施錠は、安全の為に行っている	利用者の思いや気持ちを受け止めつつ、行動背景や根拠に考えを巡らせ、職員側の都合で行動制限しないよう留意しながらケアにあたっている。また、ホームが道路沿いに位置しているため、安全確保や防犯目的で玄関は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会で、研修を実施し、気になることなど何かあれば、ミーティングで話し合いを行い、虐待防止に努めています。又、ちょっとした体の変化(傷、出血等)があった場合は、看護師の確認を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等での学ぶ機会は設けられていない 成年後見制度についての話し合いは今後職員にも活用できる様に支援し、学ぶ機会を作っていく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	問い合わせには、都度対応し直接説明を行っている。契約時には、利用者家族に納得してもらえるよう十分な説明を行っている 改定等の際は、文書を配布し、説明・同意を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見書を置き、それを管理者、職員にて利用者家族に納得頂けるよう努めている 契約の際に、窓口の紹介を行い、気軽に話していただける様、説明をしている	普段から話しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、家族の電話や訪問の機会を捉え、意見の聞き取りに努めているので、意見箱は設置されているが現在のところ利用されていない。コロナ禍の状況で面会を中止していたが、家族からの要望で窓越し面会実施の運びとなったとの事である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、月1回全体ミーティングにて勤務作りの希望、不満等などの面談の場づくり、意見を聞いている	管理者は、日頃から介護の現場に身を置き、職員とのコミュニケーションに努め、希望や意見を聞く機会をつくり、その都度面談を行っている。また、職員ミーティングを通じて意見のくみ上げを行い、サービスの質の向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう、ミーティングを行い、意見をまとめ、必要に応じて代表者に要望を伝えている。また、個々の問題があった場合には、早めの話し合いを実施している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会はなかなか確保できていないが、研修を受けたときは、伝達研修で他職員と共有している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは、感染対策の為、交流は行っていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行い、どのような場所なのかを説明し、会ったことのある人、という安心感を持ってもらえる様に関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に家族面談にて、思いや入居理由、不安や要望等を共に聞き、不安な事や聞きたいことを中心に説明を行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その場で即決せず、一度持ち帰り、利用者と家族がゆっくりを考え、話し合っ決めてもらうように助言している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	物事は一緒に行えるように心がけ、食事作りや洗濯物たたみを一緒にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	母の日には、遠方の家族とリモート面会をしたり、月1回写真付きの老松たよりを郵送したり、面会制限がある中でご家族が心配されないように様子をお伝えしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	孫やひ孫との窓越し面会をしてもらったりしている コロナの為、外出の機会は設けられていない	今年度も引き続き、コロナ禍の状況にあり、以前のように併設デイサービスとの交流や知人友人との面会、外出・外食等は実施できていない。しかし、便りや誕生日には色紙に写真を付けたメッセージカードを送付する等して馴染みの人との関係継続の支援に努めている。	現在もコロナ禍の影響で面会が制限的にならざるを得ない状況にあるが、代替的にラインワークス等、SNSを活用した動画や写真の共有をする等して、今後ともさらなる家族との関係継続に向けた取り組みに期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアにて皆でテレビを見たり、隣の人と昔話をしたりして笑いながら会話をしてもらっている また、トラブルになりそうな時は、職員が間に入り対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰された方は、退去後もお手紙等でご家族に様子を伺い、何かあったら相談ができるように努めている 入院の際は、入院中の様子を伺い、再入居の段取りをスムーズに行えるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様に対し、担当職員を決め、モニタリングやアセスメントに関わる様になっている ご本人から個別に希望等を聞き、困難な場合は表情をくみ取る様にしている	日常生活の中で、利用者のお話の表情や様子、内容から利用者の希望や意向を把握し、ニーズオリエンテッドな観点からの利用者支援につなげている。例えば、利用者の動きや話に応じたりハビリを行うことにより、日常生活場面での自立に向けた支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご家族に生活調査票を記入して頂き、本人からも日常の会話から昔話等を聞かせてもらっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月、利用者ごとにカンファレンスを行い、職員間で話し合いの場を作り、情報共有をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員、家族を含めサービス担当者会議の実施、必要な場合はPTや主治医にも助言を頂き、ケアプランに反映させている	コロナ禍の只中であっては感染症対策を強化しつつ、本人、家族にも参加してもらい、ケアプラン策定における担当者会議を開催している。事前に主治医やリハビリ職からも意見や助言を得て、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送りノートを活用し、職員間で情報共有をしている また、必要なときは、口頭で申し送りを実施している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に変化があった際は、負担にならない様心掛けている また、その日の本人の状況に応じて、柔軟に支援ができる様に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は、コロナ禍の為、イベント等での交流はできていないが、天気の良い日等近所の散歩は希望されれば実施している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族のご希望を大切に、かかりつけ医と連携を密にとって支援している 現在、1か月2回の訪問診療を行い、Drより指示を頂いている	利用前からの主治医との関係を継続しており、複数のかかりつけ医が訪問診療で来訪する等して、連携している。他科受診時には、家族同行で受診している。主治医との連携を密にとり、いつでも相談できる関係を構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化やいつもと違う様子等に気づいたときは看護師に報告し、看護師はその都度判断し、受診することもある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、情報提供書をお渡しし、入院中も定期的に病院と電話で連絡を取り合っ様子を伺っている 退院時はスムーズに対応できる様担当者を明示している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際は、重度化や終末期、看取りについての説明をしている また、体調悪化がみられたら、早い段階で、主治医、看護師、ケアマネ、家族での話し合いをしている	法人グループで様々な施設や病院等の複合的事業展開を行っているため、終末期ケアのあり方について、いろいろな選択肢を提案することができる。退院して事業所に戻ってきても、主治医や訪問看護と連携し、医療的ケアが必要な場合でも受け入れる等、これまでも多くの看取りケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使用方法を学べる場を施設内研修で実施している 緊急連絡先は誰でも見てわかる様にしてあり、看護師が電話連絡にて、24時間対応している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施している 最近では、地域との交流での防災訓練には参加できていないが、前からのつながりがある為、地域との協力体制はある	法人・ホーム内においても食糧、水、マスクや消毒薬、感染対策セット等、備蓄している。地域の福祉避難所になっているため、避難用物資は地域の人々についても考慮して備えてある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	上から目線の声掛けや、不適切ケアについて何度も一人ひとりの尊厳を大切にしているの介護を行うように勉強会を実施しているが、馴れ合いの中で言葉遣いについては課題もある	利用者一人ひとりの人格を大切にしている観点から、接遇姿勢や言葉づかいについて、勉強会やオンライン研修を通して職員間で共通理解を深め、自分たちのケアを振り返っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好みを聞いたり、毎月、希望食を伺い、メニューに反映できる様に努めている 希望の服装があれば、それに似るように心掛け対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の誘導する部分もみられるが、一人ひとりの尊厳にあった生活を大事にし、本人の希望、様子をみて食事時間や臥床、離床の時間は対応し、優先順位を決めず、ゆっくり過ごしていただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みを大事にし、帽子が好きな方は帽子をかぶってもらったりと本人が希望するものを身に付け、いくつになっても男性、女性らしくおしゃれし、季節にあった服装を選んでもらうように心掛けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	夕食の一品を作る際に、野菜のカットや米とぎ、味見等を行って頂いたり、食器洗いをして頂いたりして一緒に楽しんで行えるようにしている	ユニット間で副菜を1品ずつ手作りし、交換する等工夫している。また、個々の好みや希望を聞き、献立づくりしている。食事づくりは役割を持ってもらう機会と考え、調理や下膳、食器洗い等行ってもらよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量チェックは必ず行い、記録して、変化時は、Dr.に報告し、形態を変えたり、お茶以外にも好みのお出ししたり工夫し、一人ひとりに合わせた支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア委員会を設置し、目標を掲げている 毎週1回歯科衛生士の訪問があり、口腔状態のケアを行い、助言、指導を受け、一人ひとりご自分でも行えるようにケアしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はほとんどの方がリハビリで可能な限り、トイレでの排泄を実施している 一人ひとりのトイレ間隔を把握し、トイレ介助を行い、パットの汚染が無いようにしている	利用者の排泄リズムを把握し、本人の表情やしぐさ、行動を観察し、声かけし、トイレ誘導を行う等、個別に排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と看護師と相談してもらい、水分量と食事量、運動量を見ながら指示を受け予防に取り組んでいる 改善がない場合は内服にてコントロールしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	タイミングが合わない時はできていないが、拒まれる場合は、日を改めたり、毛染めに合わせての入浴などの工夫をし、利用者の気持ちを大事にした入浴の支援を実施している	週2回の入浴を基本としている。入浴を拒否される方は無理強いせず、本人のペースに合わせて支援している。また柚子湯や入浴剤を使用し、入浴が楽しみなものになるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調によって、休みたいと言われれば休んで頂いたり、フロアで楽しみたい時はフロアで支援したりと個々の状況に応じて対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが服薬に関して意識を高め、変化時は看護師に報告し、連携している 看護師は鎮静剤、便秘薬等は症状が変化・改善しない場合はDr報告し、調整している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物や手先が器用な方への作業提供等行ったり、茶碗洗いをさせて頂いたりしている 毎日、コーヒーを入れていた方は、ご自分でコーヒーを入れて飲んでいただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出はできておらず、室内で過ごす時間ばかりになっている 少しでも気分転換ができる様にプレート料理やおやつ作り等を取り入れている	今年度も引き続きコロナ禍のため、外出支援が困難な状況にある。事業所の駐車場で天気の良い日には、日向ぼっこ、周辺散策、近隣での花見等を行っている。また、併設ダイニングや浴室を活用し、祭りや温泉気分を味わっていただく等の行事を企画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金はあるが、本人が管理できない為、日常でお金を所持している利用者はいない 買い物等も外出も今はできていないが、希望の聞いて職員が買いに行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されるときは、電話をして話したり、手紙を預かったりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お花やちょっとしたものを置きたいが食べたりされる為置けないが、リビングの壁に季節に応じた壁絵を飾ったり、七夕には笹、クリスマスにはクリスマスツリーを飾ったりと工夫しながら、季節を感じてもらっている	季節に合わせて、リビングの壁に塗り絵や貼り絵等、作品を飾っている。リビングは、天井が高く、明るく、広く感じられる。畳コーナーも設けてあり、落ち着いて過ごせる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビングにソファを置いて、1人になったり、2人で話したりする空間が作っており、本人の気に入った場所がそれぞれあり、そこで過ごしていただいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族と相談し、馴染みの家具を入れてもらったり、壁に家族の写真や飾ったり、好みのものを置いたりして、居心地の良い空間を作る様に工夫している	利用者一人ひとりの生活スタイルに合わせて、馴染みの家具やテレビが置かれてある。壁には家族の写真や作品が飾られ、居心地の良い環境になるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器を自分で動かしたり、トイレ、ふる場は立ち上がりやすい位置に手すりを設置しているため、トイレも自由に行えるように支援している トイレ位置や自分の居室がわかる様に大きな表示にして工夫している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170103986		
法人名	有限会社 アルファメディカル		
事業所名	ハートヴィレッジ老松		
所在地	岐阜県岐阜市老松町10		
自己評価作成日	令和 4年 7月 20日	評価結果市町村受理日	令和 4年 11月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosyoCd=2170103986-00&SerViCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和 4年 8月 23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

看取りの希望が多く、最期までの支援を多く行い、ご家族も交えての医療との連携を密に行っています。また、本部が医療法人である為、医療との連携が早いです。コロナ禍でも、家族との時間を大切にできる様、リモート面会や窓と駐車場で面会、ターミナル期の方は、感染対策を十分に行い、直接ご本人と面会できる様にしています。また、自立支援を念頭にいたケアを実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に添った実践に努め、共有していますが、コロナ感染があり、地域との連携ができていない		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	長い時間の交流は現在できていませんが、近所の方との挨拶やお日待ちの参加は実施している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流が限られているため、地域の人々に向けての大きな支援活動ができていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染対策の為、会議の開催が出来ず、書面にての郵送の為、なかなか意見交換ができていない		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告は書面にて行い、後はメール連絡等で連絡をもらっています		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会で研修を年2回、委員会を年4回実施しており、目標を掲げ、ケアに取り組んでいる。又、毎月、ミーティングで身体拘束をしないケアの実践に向けて振り返り、話し合いを行っている。玄関の施錠は、安全の為に行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会で、研修を実施し、気になることなど何かあれば、ミーティングで話し合いを行い、虐待防止に努めています。又、ちょっとした体の変化(傷、出血等)があった場合は、看護師の確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等での学ぶ機会は設けられていない 成年後見制度についての話し合いは今後職員にも活用できる様に支援し、学ぶ機会を作っていく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	問い合わせには、都度対応し直接説明を行っている。契約時には、利用者家族に納得してもらえるよう十分な説明を行っている 改定等の際は、文書を配布し、説明・同意を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見書を置き、それを管理者、職員にて利用者家族に納得頂けるよう努めている 契約の際に、窓口の紹介を行い、気軽に話していただける様、説明をしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、月1回全体ミーティングにて勤務作りの希望、不満などの面談の場をつくり、意見を聞いている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう、ミーティングを行い、意見をまとめ、必要に応じて代表者に要望を伝えている。また、個々の問題があった場合には、早めの話し合いを実施している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会はなかなか確保できていないが、研修を受けたときは、伝達研修で他職員と共有している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは、感染対策の為、交流は行っていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行い、どのような場所なのかを説明し、会ったことのある人、という安心感を持ってもらえる様に関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に家族面談にて、思いや入居理由、不安や要望等を共に聞きし、不安な事や聞きたいことを中心に説明を行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その場で即決せず、一度持ち帰り、利用者や家族がゆっくりを考え、話し合ってから決めるように助言している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	物事は一緒に行えるように心がけ、食事作りや洗濯物たたみを一緒にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	母の日には、遠方の家族とリモート面会をしたり、月1回写真付きの老松たよりを郵送したり、面会制限がある中でご家族が心配されないように様子をお伝えしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	孫やひ孫との窓越し面会をしてもらったりしている コロナの為、外出の機会は設けられていない		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアにて皆でテレビを見たり、隣の人と昔話をしたりして笑いながら会話をしている また、トラブルになりそうな時は、職員が間に入り対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰された方は、退去後もお手紙等でご家族に様子を伺い、何かあったら相談ができるように努めている。入院の際は、入院中の様子を伺い、再入居の段取りをスムーズに行えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様に対し、担当職員を決め、モニタリングやアセスメントに関わる様になっている ご本人から個別に希望等を聞き、困難な場合は表情をくみ取る様にしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご家族に生活調査票を記入して頂き、本人からも日常の会話から昔話等を聞かせてもらっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月、利用者ごとにカンファレンスを行い、職員間で話し合いの場を作り、情報共有をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員、家族を含めサービス担当者会議の実施、必要な場合はPTや主治医にも助言を頂き、ケアプランに反映させている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送りノートを活用し、職員間で情報共有をしている また、必要なときは、口頭で申し送りを実施している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に変化があった際は、負担にならない様心掛けている また、その日の本人の状況に応じて、柔軟に支援ができる様に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は、コロナ禍の為、イベント等での交流はできていないが、天気の良い日等近所の散歩は希望されれば実施している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族のご希望を大切にし、かかりつけ医と連携を密にとって支援している 現在、1か月2回の訪問診療を行い、Drより指示を頂いている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化やいつもと違う様子等に気づいたときは看護師に報告し、看護師はその都度判断し、受診することもある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、情報提供書をお渡しし、入院中も定期的に病院と電話で連絡を取り合っ様子を伺っている 退院時はスムーズに対応できる様担当者を明示している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際は、重度化や終末期、看取りについての説明をしている また、体調悪化がみられたら、早い段階で、主治医、看護師、ケアマネ、家族での話し合いをしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使用方法を学べる場を施設内研修で実施している 緊急連絡先は誰でも見てわかる様にしてあり、看護師が電話連絡にて、24時間対応している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施している 最近では、地域との交流での防災訓練には参加できていないが、前からのつながりがある為、地域との協力体制はある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	上から目線の声掛けや、不適切ケアについて何度も一人ひとりの尊厳を大切にしている 介護を行うように勉強会を実施しているが、馴れ合いの中で言葉遣いについては課題もある		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好みを聞いたり、毎月、希望食を伺い、メニューに反映できる様に努めている 希望の服装があれば、それに似るように心掛け対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の誘導する部分もみられるが、一人ひとりの尊厳にあった生活を大事にし、本人の希望、様子を見て食事時間や臥床、離床の時間は対応し、優先順位を決めず、ゆっくり過ごしていただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みを大事にし、帽子が好きな方は帽子をかぶってもらったりと本人が希望するものを身に付け、いくつになっても男性、女性らしくおしゃれし、季節にあった服装を選んでもらうように心掛けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	夕食の一品を作る際に、野菜のカットや米とぎ、味見等を行って頂いたり、食器洗いをして頂いたりして一緒に楽しんで行えるようにしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量チェックは必ず行い、記録して、変化時は、Dr.に報告し、形態を変えたり、お茶以外にも好みのものをお出ししたり工夫し、一人ひとりに合わせた支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア委員会を設置し、目標を掲げている 毎週1回歯科衛生士の訪問があり、口腔状態のケアを行い、助言、指導を受け、一人ひとりご自分でも行えるようにケアしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はほとんどの方がリハビリで可能な限り、トイレでの排泄を実施している 一人ひとりのトイレ間隔を把握し、トイレ介助を行い、パットの汚染が無いようにしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と看護師と相談してもらい、水分量と食事量、運動量を見ながら指示を受け予防に取り組んでいる 改善がない場合は内服にてコントロールしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	タイミングが合わない時はできていないが、拒まれる場合は、日を改めたり、毛染めに合わせての入浴などの工夫をし、利用者の気持ちを大事にした入浴の支援を実施している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調によって、休みたいと言われれば休んで頂いたり、フロアで楽しみたい時はフロアで支援したりと個々の状況に応じて対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが服薬に関して意識を高め、変化時は看護師に報告し、連携している 看護師は鎮静剤、便秘薬等は症状が変化・改善しない場合はDr報告し、調整している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物や手先が器用な方への作業提供等行ったり、茶碗洗いをして頂いたりしている 毎日、コーヒーを入れていた方は、ご自分でコーヒーを入れて飲んでいただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出はできておらず、室内で過ごす時間ばかりになっている 少しでも気分転換ができる様にプレート料理やおやつ作り等を取り入れている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金はあるが、本人が管理できない為、日常でお金を所持している利用者はいない 買い物等も外出も今はできていないが、希望の聞いて職員が買いに行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されるときは、電話をして話したり、手紙を預かったりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お花やちょっとしたものを置きたいが食べたりされる為置けないが、リビングの壁に季節に応じた壁絵を飾ったり、七夕には笹、クリスマスにはクリスマスツリーを飾ったりと工夫しながら、季節を感じてもらっている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビングにソファを置いて、1人になったり、2人で話したりする空間が作っており、本人の気に入った場所がそれぞれあり、そこで過ごしていただいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族と相談し、馴染みの家具を入れてもらったり、壁に家族の写真を飾ったり、好みのものを置いたりして、居心地の良い空間を作る様に工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器を自分で動かしたり、トイレ、ふろ場は立ち上がりがしやすい位置に手すりを設置しているため、トイレも自由に行えるように支援している。トイレ位置や自分の居室がわかる様に大きな表示にして工夫している。		